

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 28日は、低気圧がオホーツク海へ進み、低気圧からのびる前線が北日本付近を通過する。また低気圧が本州の南岸を東進し、低気圧からのびる前線が沖縄・奄美を通過する。
- 29日から31日にかけて、高気圧が東シナ海から本州付近を通過して日本の東へ移動する。
- 31日から4月1日にかけて、気圧の谷が東シナ海から日本の南へ進む。

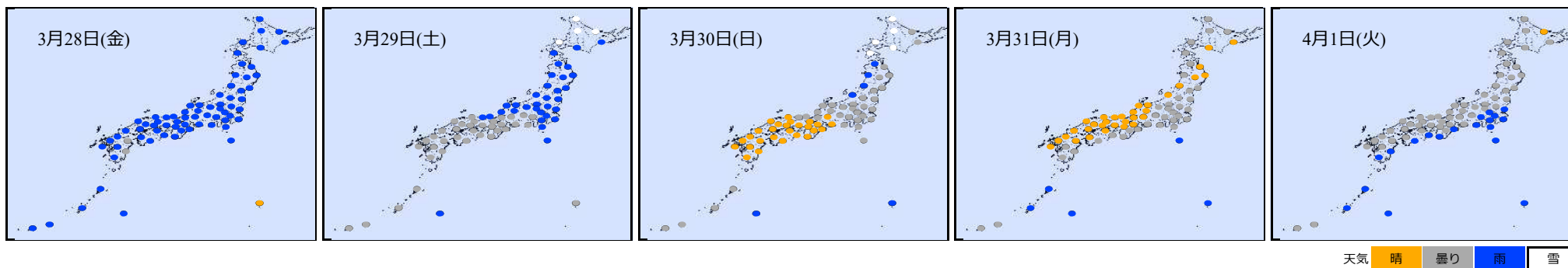
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 28日にかけては、低気圧や前線の影響で荒れた天気となる所がある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

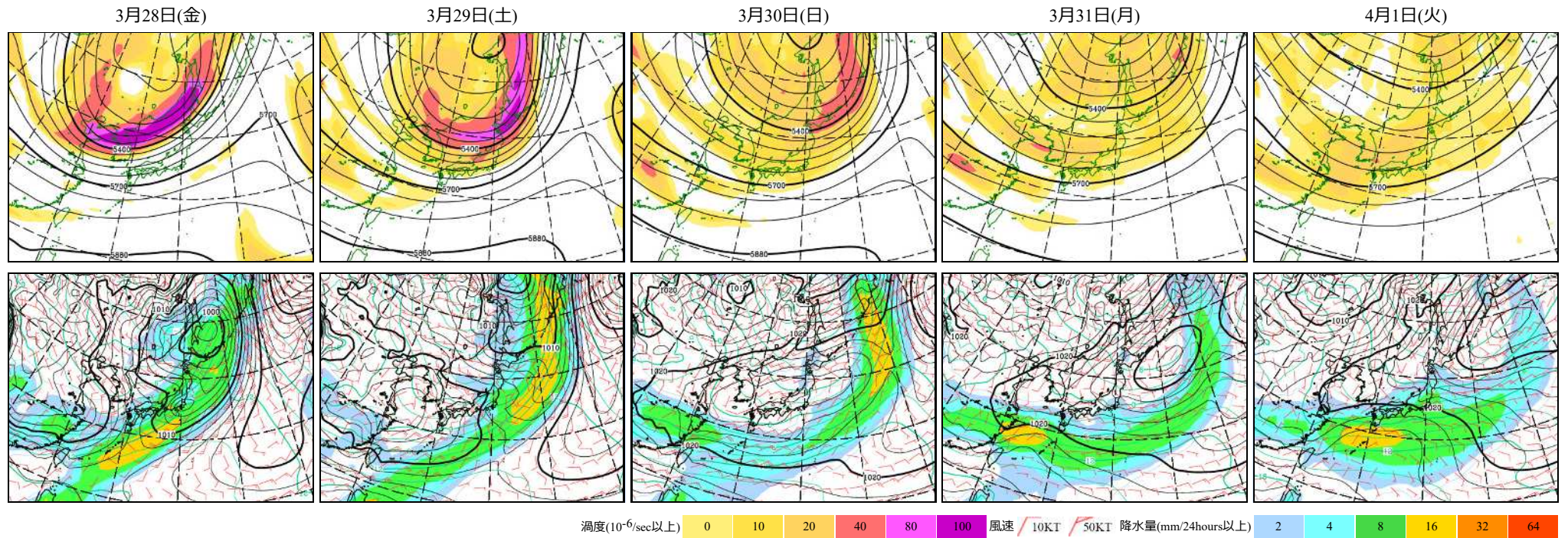
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

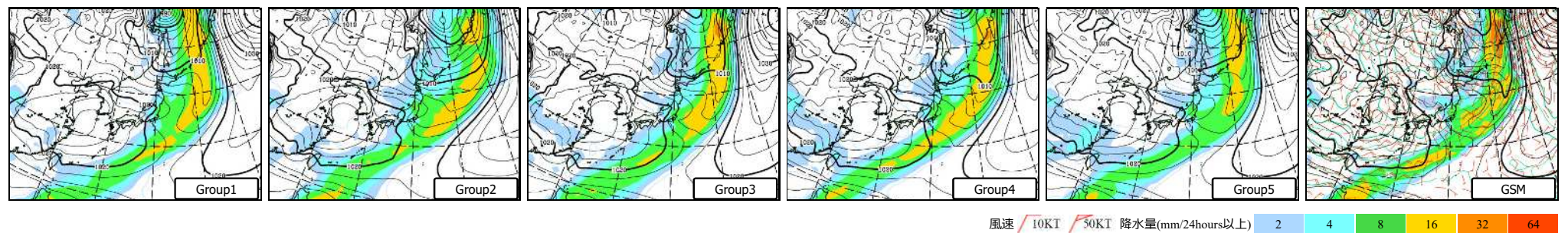


- 北日本は、曇りや雨または雪の降る日が多い。
- 東日本と西日本は、曇りや雨または雪の降る所が多いが、30日～31日は曇りや晴れとなる。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆3月29日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- スプレッドは、比較的小さいが期間の後半は各特定高度線のばらつきが見られる。
- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、28日は本州の南岸を東進して伊豆諸島付近に進む低気圧が明瞭となった。また、31日から4月1日に東シナ海から日本の南へ進む気圧の谷が明瞭となった。
- 31日は東シナ海付近の気圧の谷が明瞭となったため、沖縄・奄美付近の降水確率ガイダンスの値が大きくなった。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。